

MultiTextConverter

取扱説明書

アールケー開発

<http://www.rk-k.com/>

第1章 はじめに

MultiTextConverter について

インターネットの普及に伴い、異なるシステム間でデータをやりとりする機会は非常に増えていきます。MultiTextConverter はこれらのシステム間で作成されたテキストファイルの違いを相互変換することが出来るソフトウェアです。

MultiTextConverter は次の情報を変換します。

- 改行コード
- 文字コード（テキストエンコーディング）
- 半角カタカナ
- HTML の文字コード指定情報
- XML の文字コード指定情報
- CSS の文字コード指定情報

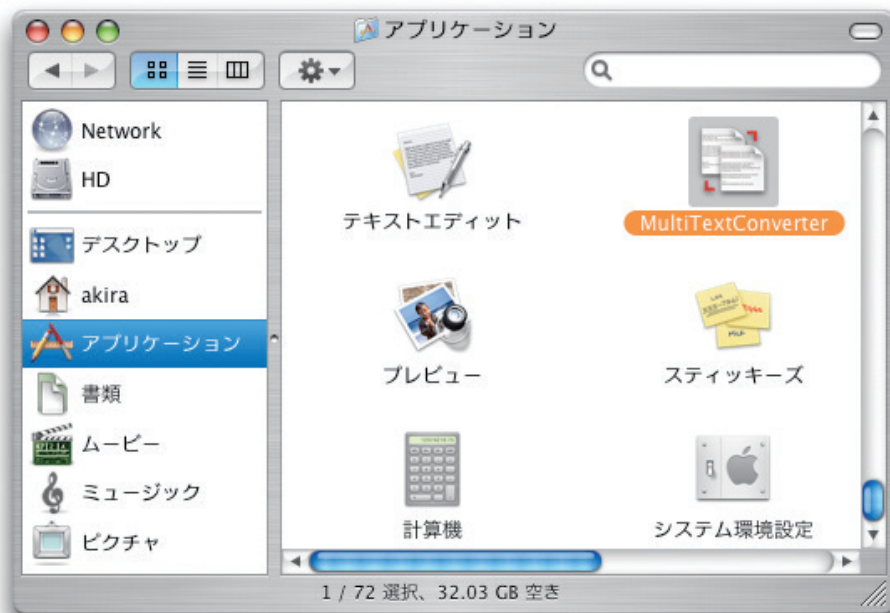
動作環境

- Intel Core プロセッサを搭載した Macintosh コンピュータ
- Mac OS X 10.4 以降（10.8 以降を推奨）

インストール方法

ハードディスクの好きな場所にコピーしてご利用ください。特別な理由がない場合はアプリケーションフォルダにコピーすることをお勧めします。

アプリケーションフォルダは起動ディスクのルートディレクトリにあります。



クイックツアー

MultiTextConverter の簡単な使い方をご紹介します。

(1) 環境設定ウインドウを表示する

「MultiTextConverter」メニューから「環境設定」を選択します。

(2) 改行コードを選択する

変換後のテキストファイルの改行コードを選択します。初期状態では「LF(Mac OS X and UNIX)」が選択されています。この設定は Mac OS X で標準で使用されているテキストファイルの設定です。

(3) 文字コードを選択する

変換後のテキストファイルの文字コード（テキストエンコーディング）を選択します。初期状態では「Shift JIS」が選択されています。この設定は日本語環境の Mac OS X のシステム設定と同じ設定です。

(4) 環境設定画面を閉じる

「ファイル」メニューから「閉じる」を選択するか、ウインドウのクローズボックスをクリックして、環境設定画面を閉じます。

(5) 変換実行

変換したいファイルや変換したいファイルが入ったフォルダを MultiTextConverter のアイコンにドラッグ&ドロップします。MultiTextConverter のアイコンは Dock（ドック）に表示されているアイコンでも、アプリケーションフォルダ内のアイコンのどちらでも変換を実行します。

変換処理が完了すると MultiTextConverter も自動的に終了します。

第2章 メニュー

MultiTextConverter メニュー

MultiTextConverter について

バージョン情報を表示します。

環境設定

環境設定画面を表示します。

MultiTextConverter を終了

MultiTextConverter を終了します。

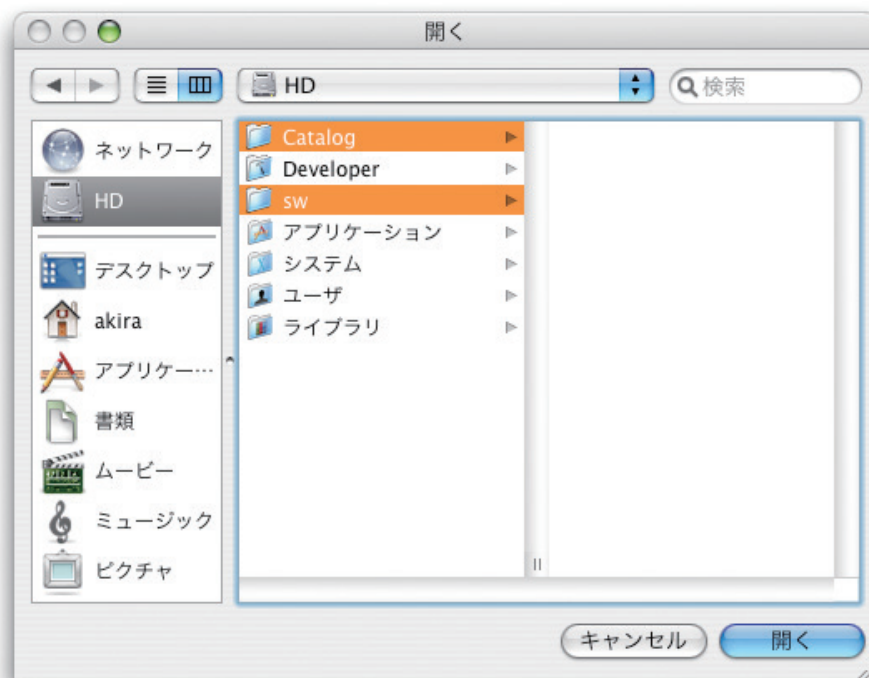
ファイルメニュー

変換

変換処理を実行します。選択すると、変換対象ファイル／フォルダ選択ダイアログが表示されます。

変換したいファイル／フォルダを選択し、「開く」ボタンをクリックすると、選択したファイル／フォルダの変換を実行します。

選択ダイアログ内で、フォルダを開くにはフォルダをダブルクリックします。複数の項目を選択するには、コマンドキーを押しながら項目をクリックします。また、シフトキーを押しながらクリックすると、最後に選択した項目とシフトキーを押しながら選択した項目の間にある項目も選択します。



閉じる

最前面のウインドウを閉じます。環境設定ウインドウを閉じるのに使用します。

ページ設定

MultiTextConverter では使用しません。

プリント

MultiTextConverter では使用しません。

編集メニュー

取り消し

直前の操作を取り消します。但し、変換処理は取り消しできません。

やり直し

取り消しした操作をやり直します。

カット

選択している対象をカットします。

コピー

選択している対象をコピーします。

ペースト

選択されている場所に、カットまたはコピーしたデータをペーストします。

削除

選択されている対象を削除します。

すべてを選択

選択可能な部分を全て選択します。

検索

MultiTextConverter では使用しません。

スペル

MultiTextConverter では使用しません。

特殊文字

文字パレットを表示します。キーボードから入力できない文字などを入力することが出来ます。

ウインドウメニュー

ウインドウをしまう

最前面のウインドウを Dock(ドック)に格納します。Dock(ドック)に格納されたアイコンをクリックすると、ウインドウを元に戻すことが出来ます。

拡大／縮小

最前面のウインドウを最大サイズに拡大、または、拡大前のサイズに戻します。

すべてを手前に移動

MultiTextConverter のウインドウを最前面に持ってきます。

ヘルプメニュー

使用許諾契約書

使用許諾契約書を表示します。

サポートサイト

アールケー開発の公式サイトを開きます。最新版のダウンロードやお知らせなどは公式サイトをご覧ください。

お問い合わせページ

お問い合わせページを開きます。このページからお問い合わせ頂くと、担当者より電子メールにてご連絡を差し上げます。

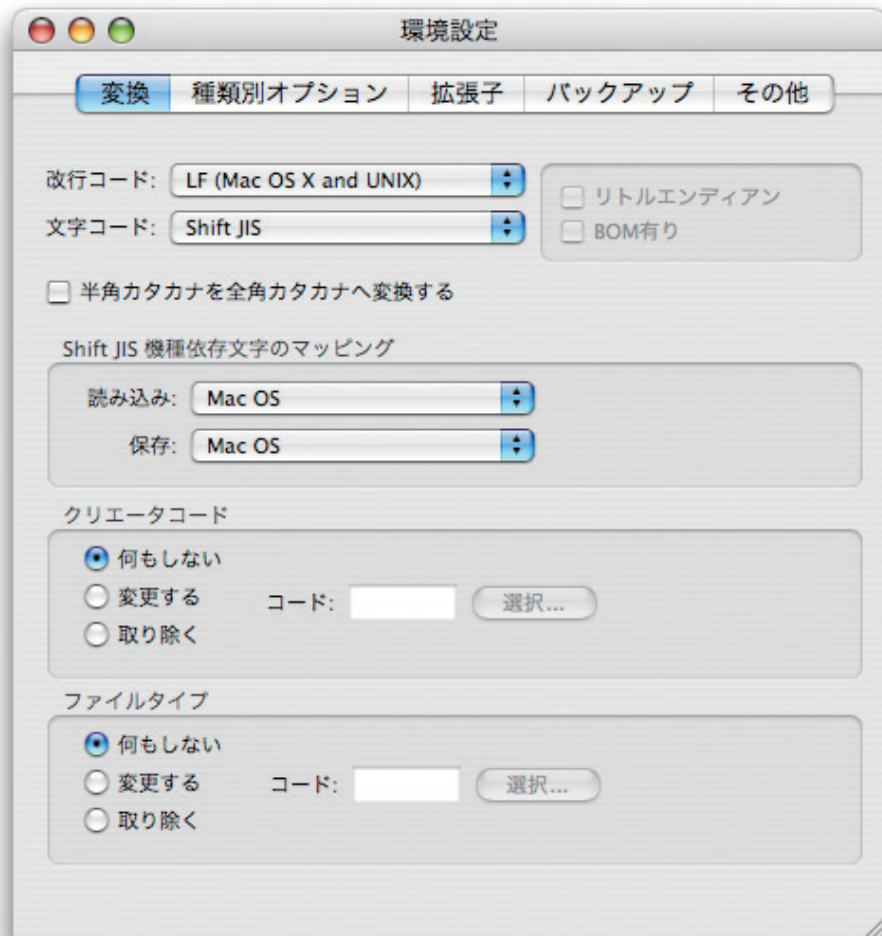
第3章 環境設定ウィンドウ

環境設定ウィンドウを表示する

環境設定ウィンドウは「MultiTextConverter」メニューから「環境設定」を選択すると表示されます。
環境設定ウィンドウでは、MultiTextConverter の動作を細かく設定することが出来ます。

変換設定

「変換」タブをクリックすると、変換設定画面が表示されます。



改行コード

変換後のファイルの改行コードを設定します。改行コードは次の中から選択します。

(1) 変換しない

改行コードの変換処理を行いません。変換後のファイルは変換前のファイルの改行コードで保存されます。

(2) LF (Mac OS X and UNIX)

Mac OS X や UNIX で標準的に使用されている改行コードです。改行を LF (Line Feed:0x0A) で表します。

(3) CR (Mac OS 9)

Mac OS 9 以前で標準的に使用されている改行コードです。改行を CR (Carriage Return:0x0D) で表します。

(4) CR+LF (Windows)

Windows や MS-DOS で標準的に使用されている改行コードです。改行を CR と LF をセットにして表します。

(5)LS (Unicode)

Unicode でのみ使用できる改行コードです。改行を LS(Line Separator:0x2028) で表します。MultiTextConverter では、文字コードに UTF-8、UTF-16、UTF-32 のいずれかを選択したときのみ、この改行コードを選択することが出来ます。

文字コード (テキストエンコーディング)

変換後のファイルの文字コードを設定します。文字コードは次の中から選択します。

(1) 変換しない

文字コードの変換処理を行いません。変換後のファイルは変換前のファイルの文字コードで保存されます。

(2)Shift JIS

Shift JIS コードで保存します。Mac OS や Windows の日本語環境で標準的に使用されている文字コードです。

(3)JIS

JIS コードで保存します。

(4)EUC JP

EUC コードで保存します。EUC コードは Unix や Linux の日本語環境で標準的に使用されている文字コードです。但し、最近の Linux では UTF-8 もよく使われます。

(5)UTF 8

UTF-8 で保存します。UTF-8 は ASCII 文字については Shift JIS コード、JIS コード、EUC コードと互換性があります。UTF-8 は各文字を表すのに Unicode を使用します。

(6)UTF 16

UTF-16 で保存します。UTF-16 では 1 文字を 16 ビット (2 バイト) で保存します。UTF-16 は各文字を表すのに Unicode を使用します。

(7)UTF 32

UTF-32 で保存します。UTF-32 では 1 文字を 32 ビット (4 バイト) で保存します。UTF-32 は各文字を表すのに Unicode を使用します。

リトルエンディアン

このチェックボックスがチェックされると、MultiTextConverter は UTF-16、UTF-32 で保存する際に、各バイトをリトルエンディアン方式で並べます。チェックがされていないときは、ビッグエンディアン方式で保存します。

エンディアン

複数バイトで構成される文字を表すときに、文字を構成する各バイトを並べる順番のことで、2つの方式があります。

リトルエンディアン方式

下位バイトから順番に並べる方式です。Intel 系の CPU ではこの方式が使用されます。

ビッグエンディアン方式

上位バイトから順番に並べる方式です。モトローラ系の CPU ではこの方式が使用されます。

BOM 有り

UTF 8、UTF 16、UTF 32 で保存するときに、BOM (Byte Order Mark) を出力するか設定します。

BOM はバイトの並び順がリトルエンディアン方式かビッグエンディアン方式かを示すマークです。

UTF 8 では出力せず、UTF 16、UTF 32 では出力するのが一般的です。

半角カタカナを全角カタカナへ変換する

このチェックボックスがチェックされると、MultiTextConverter はファイル中の半角カタカナを全角カタカナに変換して保存します。半角カタカナはインターネットでやり取りされるいくつかの文字コードで問題が出る場合があります。

Shift JIS 機種依存文字のマッピング

丸囲み数字などを Shift JIS コードでは OS に依存する文字のマッピング方法を読み込み時、保存時それぞれについて設定します。たとえば、Windows で作成されたテキストファイルを Mac へ持ってくる場合、読み込みを「Windows (Code Page 932)」、保存を「Mac OS」に設定すると、Windows 上で作成されたテキストファイルに丸囲み数字が含まれていても Mac の丸囲み数字に置き換えます。このようにしない場合は、Windows 上で入力した丸囲み数字は Mac 上では括弧の中に曜日がかかれた記号になってしまいます。

クリエーターコード

保存後のファイルのクリエーターコードに対する設定を行います。クリエーターコードは、ファイルを作成したソフトウェアを識別するための 4 文字のコードです。Mac OS 専用の情報です。設定は以下のものから選択します。

(1) 何もしない

変換前のファイルのクリエーターコードを使用します。

(2) 変更する

コード欄に入力したクリエーターコードに変更して保存します。クリエーターコードはコード入力欄の隣のボタンをクリックして、表示されるダイアログで選択することも出来ます。選択ダイアログでファイルを選択すると、選択したファイルのクリエーターコードが入力欄に入力されます。

(3) 取り除く

クリエーターコードを削除します。Mac OS X ではクリエーターコードが無いファイルは、拡張子に基づいて開くソフトウェアを決定します。

ファイルタイプ

保存後のファイルのファイルタイプコードを設定します。ファイルタイプコードはファイルの形式を識別するための 4 文字のコードです。Mac OS 専用の情報です。設定は以下のものから選択します。

(1) 何もしない

変換前のファイルのファイルタイプコードを使用します。

(2) 変更する

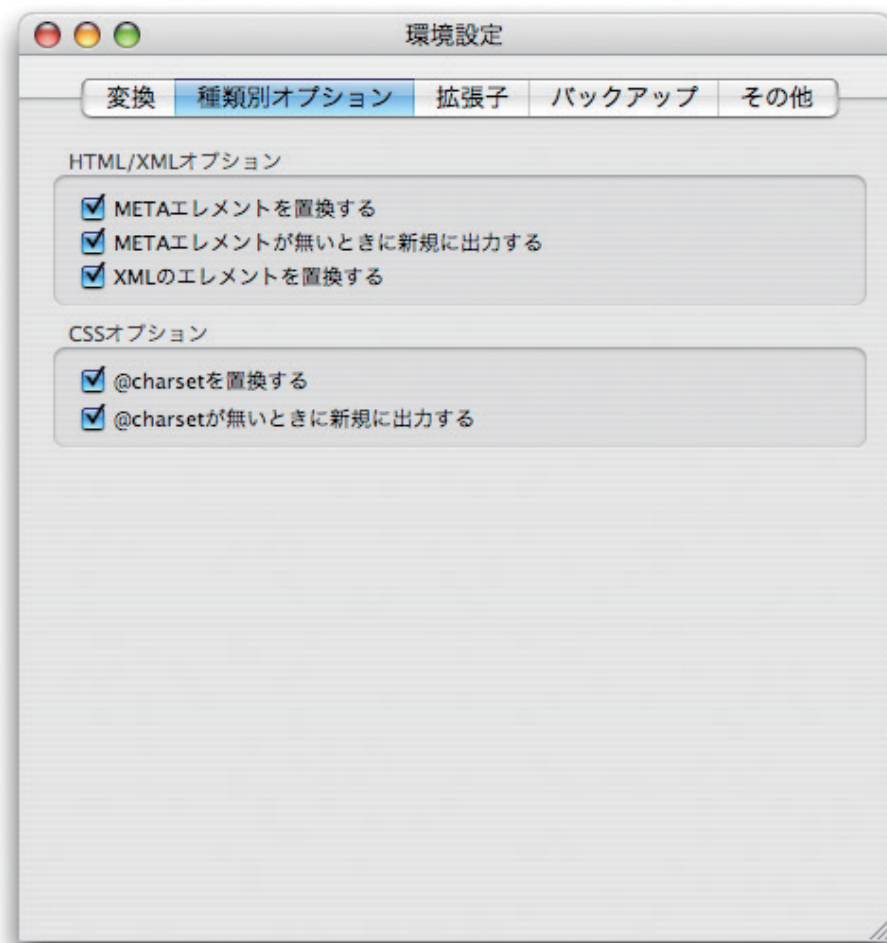
コード欄に入力したファイルタイプコードに変更して保存します。ファイルタイプコードはコード入力欄の隣のボタンをクリックして、表示されるダイアログで選択することも出来ます。選択ダイアログでファイルを選択すると、選択したファイルのファイルタイプコードが入力欄に入力されます。

(3) 取り除く

ファイルタイプコードを削除します。

種類別オプション

「種類別オプション」タブをクリックすると、ファイルの種類別の特別オプションの設定画面が表示されます。



HTML/XML オプション

HTML ファイルと XML ファイルに対する追加作業の設定を行います。HTML ファイルや XML ファイルでは、ファイル中で使用している文字コードを示す情報を入れることが出来ます。

(1)META エlementを置換する

このチェックボックスがチェックされると、MultiTextConverter は HTML ファイル中の文字コードを指定する META エlementを置換します。

(2)META エlementが無いときに新規に出力する

このチェックボックスがチェックされると、MultiTextConverter は HTML ファイル中に文字コード指定の META エlementが無いと、新しく出力します。

(3)XML のElementを置換する

このチェックボックスがチェックされると、MultiTextConverter は XML ファイル中の文字コード指定Elementを置換します。

CSS オプション

CSS (カスケードスタイルシート) ファイルに対する追加作業の設定を行います。

MultiTextConverter は "css" という拡張子を持っているファイルを CSS ファイルとして認識します。

(1)@charset を置換する

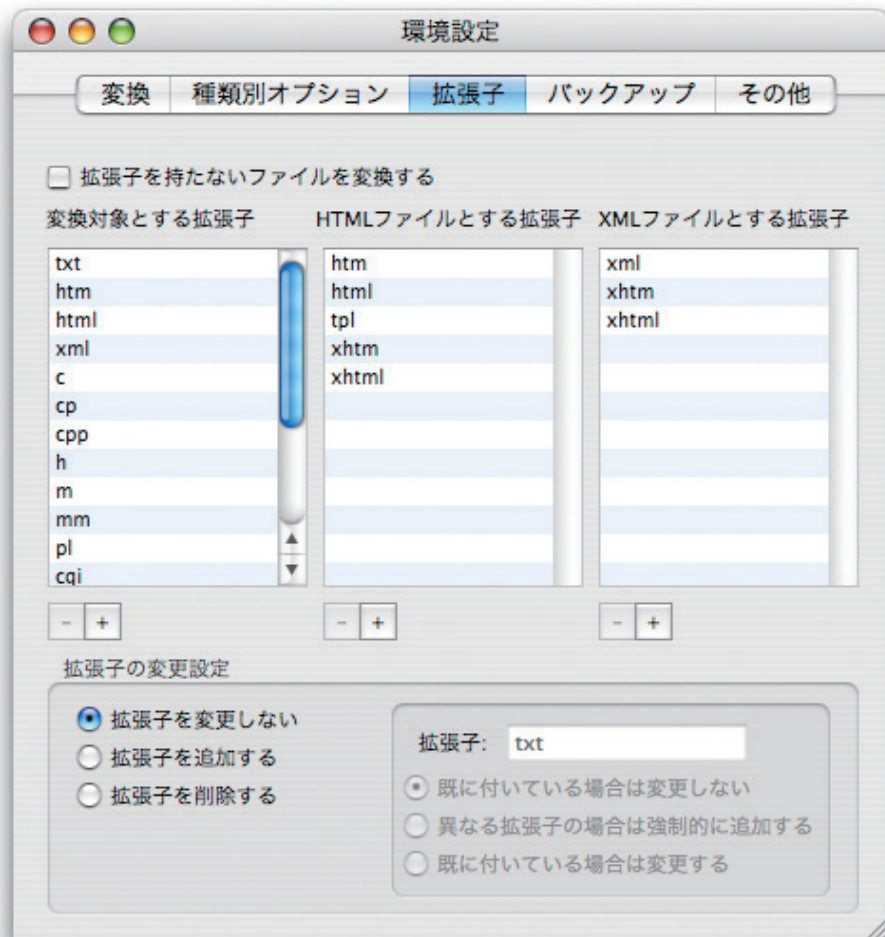
このチェックボックスがチェックされると、MultiTextConverter は @charset を使った文字コード指定命令を置換します。

(2)@charset が無いときに新規に出力する

このチェックボックスがチェックされると、MultiTextConverter は @charset を使った文字コード指定命令が無いときに、新しく命令を出力します。

拡張子設定画面

「拡張子」タブをクリックすると、拡張子設定画面が表示されます。



拡張子を持たないファイルを変換する

このチェックボックスがチェックされると、拡張子を持っていないファイルを全て変換します。

変換対象とする拡張子

このリストに登録されている拡張子を持っているファイルに対してのみ、MultiTextConverter は変換処理を実行します。

このリストは、リストの下にある [+] ボタンで項目を追加することが出来ます。追加した項目や既存の項目はリスト内で内容を変更することが出来ます。内容を変更するには、項目をダブルクリックし、編集状態にします。内容変更後は、エンターキーを押すか、リスト内の他の場所をクリックし、変更を確定してください。

また、リストの下にある [-] ボタンをクリックすると、現在リストで選択されている項目がリストから削除されます。

リストは、コマンドキーを押しながらクリックすることで、複数の項目を選択することが出来ます。また、シフトキーを押しながらクリックすると、最後に選択されている項目から、シフトキーを押しながらクリックした項目までが選択されます。

HTML ファイルとする拡張子

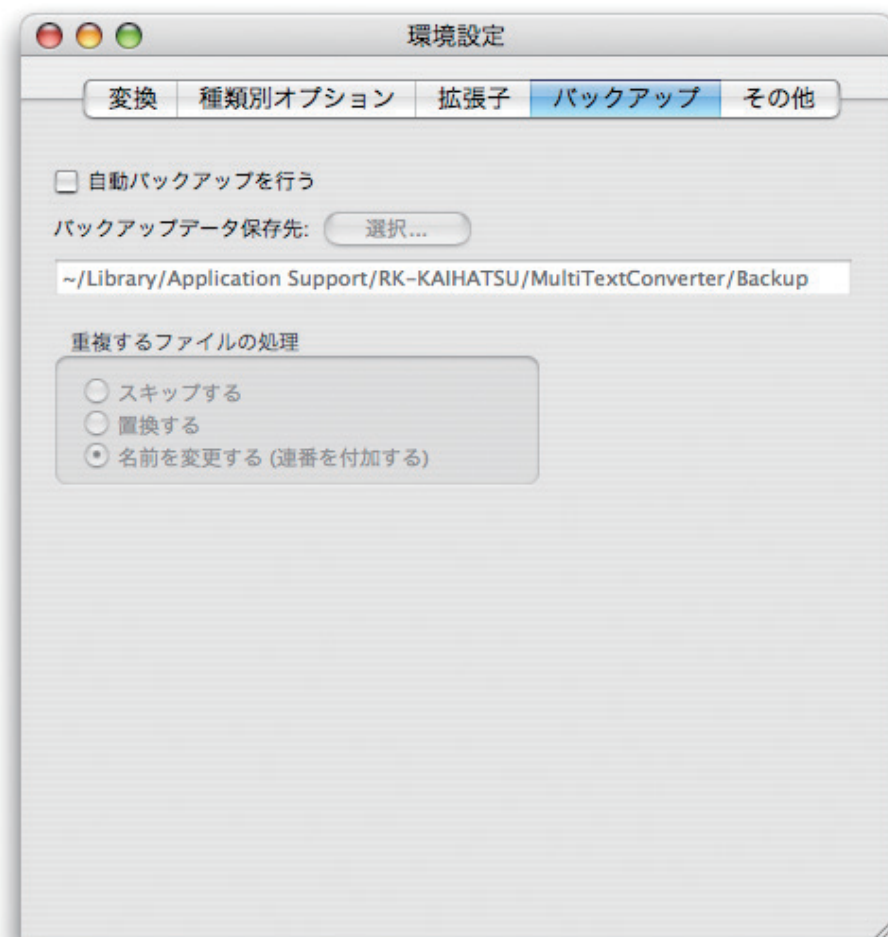
このリストに登録されている拡張子を持つファイルを HTML ファイルとして認識します。

XML ファイルとする拡張子

このリストに登録されている拡張子を持つファイルを XML ファイルとして認識します。

バックアップ設定画面

「バックアップ」タブをクリックすると、バックアップ設定画面が表示されます。



自動バックアップを行う

このチェックボックスがチェックされると、MultiTextConverter は変換指示をされたファイルやフォルダを自動的にバックアップコピーを作成してから、変換処理を実行します。

バックアップ処理は、変換対象のファイルかどうかに関わらず、変換指示されたファイルやフォルダを無条件でバックアップします。

バックアップデータ保存先

バックアップコピーを保存するフォルダを指定します。フォルダの指定は入力欄に直接入力するか、選択ボタンをクリックすると表示されるダイアログでフォルダを選択してください。

重複するファイルの処理

同じ名前のバックアップコピーが存在するときの処理方法を設定します。

(1) スキップする

バックアップコピーを作成せず、変換処理を実行します。

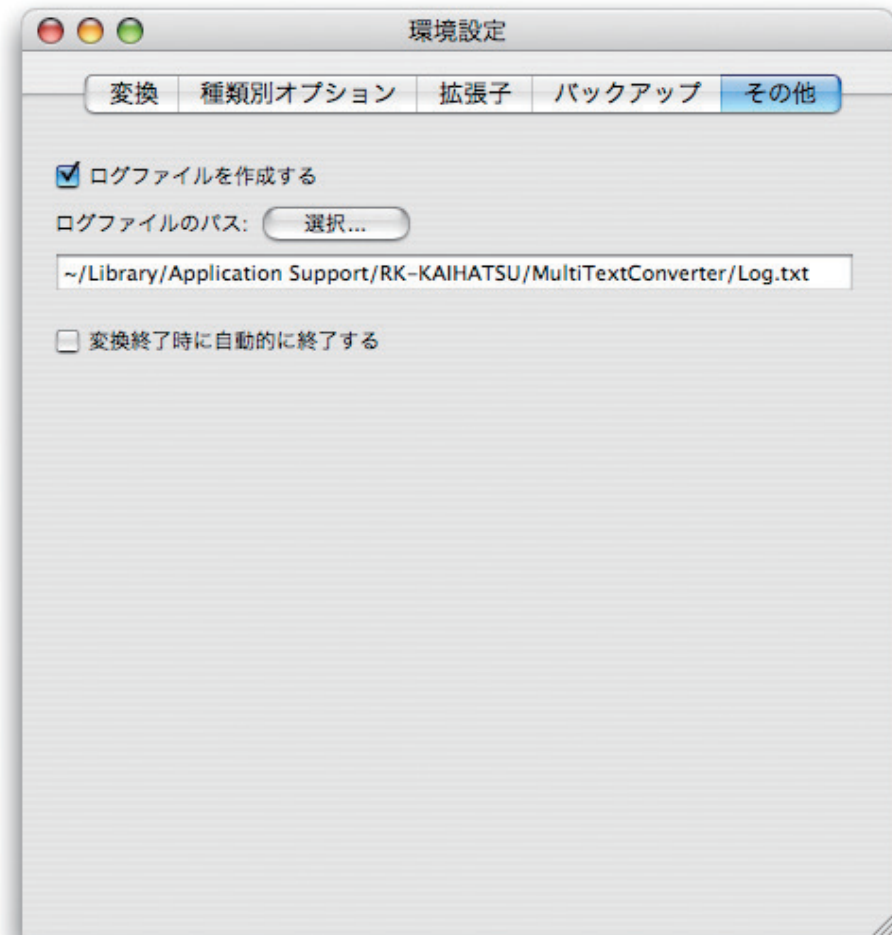
(2) 置換する

既に作成されているバックアップコピーは削除してから、新しいバックアップコピーを作成します。

(3) 名前を変更する (連番を付加する)

その他設定画面

「その他」タブをクリックすると、その他の設定画面を表示します。



ログファイルを作成する

このチェックボックスがチェックされると、MultiTextConverter は変換処理、バックアップ処理についての記録をログファイルに出力します。

ログファイルのパス

ログファイルの保存先を設定します。保存先の設定は入力欄に直接入力するか、選択ボタンをクリックすると表示されるダイアログで保存先とファイル名を設定します。

変換終了後に自動的に終了する

このチェックボックスがチェックされると、MultiTextConverter は全てのファイルの変換処理終了後に自動的に終了します。

付録 お問い合わせ

お問い合わせページ

MultiTextConverter に関するお問い合わせは、アールケー開発公式サイトのお問い合わせページよりお願いいたします。

URL:

<http://www.rk-k.com/contact.php>

なお、MultiTextConverter の「ヘルプ」メニューより「お問い合わせページ」を選択していただくと、上記のページを開きます。